

## 第1回富田林市立地適正化計画策定委員会議事録

産業まちづくり部都市計画課

- 1 開催日時 令和3年8月24日（火）午前10時00分～正午
- 2 開催場所 富田林市役所2階 全員協議会室
- 3 出席者 **【委員】** 増田委員、船本委員、置田委員、佐久間委員、柳原委員  
山本委員 **【計6人出席】**（地下委員、武田委員は欠席）  
  
**【事務局】** 森木部長、片岡理事、山中次長、福元課長、田中課長代理、  
奥西、岡本  
  
**【業務委託業者】** 兎玉、松本
- 4 開催形態 公開（傍聴人1人）
- 5 次第
  - (1) 立地適正化計画の策定方針について
  - (2) 富田林市の現状と将来見通しについて
- 6 策定委員会の経過
  - (1) 立地適正化計画の策定方針について 報告終結
  - (2) 富田林市の現状と将来見通しについて 報告終結
- 7 策定委員会の結果等 全文筆記
- 8 策定委員会配布資料  
会議次第  
配席図  
委員名簿  
富田林市立地適正化計画策定委員会設置要綱  
富田林市立地適正化計画 策定委員会資料  
別紙 公共施設等施設分布  
別紙 施設分類別の公共施設の現状の整理  
参考資料 河内長野市立地適正化計画

---

### 【事務局：福元】

只今から第1回富田林市立地適正化計画策定委員会を開催させていただきます。  
私は、都市計画課長の福元でございます。どうぞよろしく申し上げます。

皆様方には、大変お忙しいところをお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。  
また、新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力を賜りましたことを、重ねてお礼申し上げます。

本日は、はじめての策定委員会ということで、本来でありましたら副市長の松田から皆様に、お一人ずつ委嘱状をお渡しさせていただくところではございますが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、あらかじめお手元にお配りさせていただいております。

それでは、開会にあたりまして、副市長の松田より、ご挨拶を申し上げます。

#### 【松田副市長】

皆様、おはようございます。

只今ご紹介いただきました、富田林市副市長の松田でございます。

本来でございましたら、吉村市長がお伺いをさせていただきまして、皆様方にご挨拶申し上げますところではございますが、あいにく、公務が重なっておりまして出席が叶いませんので、代わりまして一言、ご挨拶の方させていただきます。

まずもって、皆様方には、立地適正化計画の策定委員会委員にご就任をお願い申し上げましたところ、ご多用にも関わりませず、快くお引き受けいただき、誠にありがとうございます。

また、日ごろは市政の各般にわたりまして、格段のご理解、ご協力を賜っておりますことをこの場をお借りいたしまして、重ねてお礼を申し上げます。

さて、ご承知のとおり、新型コロナウイルスの感染が急拡大しております。非常に厳しい事態となっております。本市におきましても、市民の皆様にも再三再四になってくるんですけども、改めて徹底した感染対策をお願いしますと共に、できるだけ多くの方に、迅速にワクチン接種を進められるように、市としても全力で取り組んでいるところでございます。

このように、コロナ禍の大変な中で、今まちづくりの議論をする時期なのかというご意見を頂戴する時もあるのですが、逆に、こういう厳しい時だからこそ、将来に向けたまちづくりの議論をしっかりと進めていく必要があるのではなかろうかというふうに考えております。

特に、近年、人口減少・少子高齢化に伴いまして、歳入の減少、社会福祉費の増加など、地方自治体を取り巻く環境は非常に厳しいものになってくることが予想されております。

このような中で、持続可能な都市経営を可能とするために、都市全体の構造を見直し「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」を形成することが重要であるとして、平成26年に都市再生特別措置法の改正が行われ、立地適正化計画が創設されたところでございます。

本市におきましても、平成14年をピークに翌年以降、人口減少が続いており、人口減少と少子高齢化問題は大きな課題となっております。この問題解決に向けまして、持続可能な都市経営を実現するために、富田林市立地適正化計画を策定してまいりたいと考えておりますので、委員の皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、委員の皆様方におかれましては、それぞれの分野での高いご見識から、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、私の

挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**【事務局：福元】**

ありがとうございました。

恐れ入りますが、副市長は他の公務のため、ここで退席させていただきますので、よろしくようお願い申し上げます。

続きまして、委員の皆様方を、名簿順にご紹介させていただきます。

増田委員でございます。

**【増田委員】**

増田でございます。よろしくお願いいたします。

**【事務局：福元】**

船本委員でございます。

**【船本委員】**

船本です。よろしくお願いします。

**【事務局：福元】**

置田委員でございます。

**【置田委員】**

置田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

**【事務局：福元】**

佐久間委員でございます。

**【佐久間委員】**

佐久間です。よろしくお願いいたします。

**【事務局：福元】**

柳原委員でございます。

**【柳原委員】**

柳原です。どうぞよろしくお願いいたします。

**【事務局：福元】**

山元委員でございます。

**【山元委員】**

山元でございます。よろしくお願いいたします。

**【事務局：福元】**

なお、地下委員、武田委員におかれましては、本日は所要のためご欠席とのご連絡をいただいております。

続きまして、事務局職員の紹介をさせていただきます。

なお、本委員会には運営支援等を受けるために、本市と立地適正化計画策定業務委託の契約を締結しています、国際航業株式会社の担当者も同席していますので、よろしくお願いいたします。

はじめに、事務局職員から紹介させていただきます。

産業まちづくり部長の森木でございます。

**【事務局：森木】**

森木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

**【事務局：福元】**

産業まちづくり部理事の片岡でございます。

**【事務局：片岡】**

片岡です。よろしくお願いいたします。

**【事務局：福元】**

産業まちづくり部次長の山中でございます。

**【事務局：山中】**

山中でございます。よろしくお願いいたします。

**【事務局：福元】**

都市計画課課長代理の田中でございます。

**【事務局：田中】**

田中です。よろしくお願いいたします。

**【事務局：福元】**

政策係副主任の奥西でございます。

【事務局：奥西】

奥西です。よろしくお願いいたします。

【事務局：福元】

政策係係員の岡本でございます。

【事務局：岡本】

岡本です。よろしくお願いいたします。

【事務局：福元】

続きまして、国際航業株式会社の担当者を紹介させていただきます。

主任技術者の児玉でございます。

【児玉】

児玉でございます。よろしくお願いいたします。

【事務局：福元】

担当技術者の松本でございます。

【松本】

松本でございます。よろしくお願いいたします。

【事務局：福元】

以上で、紹介を終わらせていただきます。

続きまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。会議次第、委員名簿、配席図、資料、別冊資料、参考資料としまして河内長野市立地適正化計画、本委員会の設置要綱をご用意させていただいております。

配布資料に漏れなどはございませんでしょうか。

続きまして、本委員会の会議ですが、お手元に配布しています設置要綱第5条第2項に、委員会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。と規定しております。本日は、委員総数8名中6名の方にご出席いただいておりますので、会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。

また、本委員会の議事につきましては、本市の「会議の公開に関する指針」により公開することとなっておりますので、会議録作成のため録音させていただきますことを、あらかじめご了承願います。

なお、本日は1名の傍聴を希望される方がお越しになっており、既に入室していただいておりますことを、ご報告させていただきます。

傍聴をされる方にお願ひします。本日の委員会の資料といっしょに配布しております『会議の傍聴に係る遵守事項』を守り、議事の円滑な運営にご協力願ひします。

では、議事に入ります前に、事務局より願ひがござひます。

ご発言の際には、お手元のマイクのボタンを押していただいてから、ご発言いただきますよう願ひいたします。

それでは、お手元の会議次第により会議を進めさせていただきます。

次第1.(4)「会長及び副会長の選任」についてですが、会長及び副会長は設置要綱第4条第1項の規定により委員の互選により定めとなっております。

この件につきまして、何かご意見はござひますでしょうか。

意見がござひませんようでしたら、事務局の一任ということでもよろしいでしょうか。

**【各委員】**

異議なし。

**【事務局：福元】**

ありがとうございます。

事務局といたしましては、本市の都市計画審議会会長などを務めていただいておりますLAまちづくり研究所長並びに大阪府立大学名誉教授の増田委員に会長を、副会長には、都市計画審議会副会長を務めていただいております置田委員に願ひしてはとありますが、皆様がでしょうか。

**【各委員】**

異議なし。

**【事務局：福元】**

「異議なし」とのお声でござひますので、会長には「増田委員」、副会長には「置田委員」に願ひしたいと思ひます。

では、大変恐れいりますが席のご移動をお願ひします。

また、会議の準備のため、ここで、若干お時間をいただきたいと思ひます。

———— 移動 ————

**【事務局：福元】**

お待たせいたしました。

それでは、新しく就任されました正副会長を代表しまして、増田会長に就任のご挨拶をお願ひいたします。

**【議長：増田会長】**

皆様、改めましておはようございます。

先ほど、皆様方のご推挙によりまして、会長の任をお受けすることになりました増田でございます。よろしくお願ひしたいと思ひます。

先ほど、副市長の話にもありましたように、我々まちづくりをしてきて、人口減少を前提に何かを考えていくということは初めての経験と言ってもいいようなことで、大幅な人口減少、これを前提にどういうまちづくりをしていくのかというのが、非常に大きな課題になっておりますし、一方、SDGsや脱炭素の中でいかに効率よく都市を経営していくのかという視点が求められていると。そんな辺りから、コンパクトシティプラスネットワークというのが言われているのですけれども、具体的には、都市計画マスタープランを詳細化、あるいは、高度化、実現化したプランが、この立地適正化計画と言われておりますので、20年先を見通しながら実行できるプランづくりというふうなことで繋げていきたいと思ひますので、忌憚のない意見をいただきながら、まとめていきたいと思ひます。ご協力の程、よろしくお願ひしたいと思ひます。

また、置田委員には副会長という任で、お手数をおかけしますがよろしくお願ひいたします。甚だ簡単ですけれども、挨拶とさせていただきます。

#### 【事務局：福元】

ありがとうございました。

それでは、以後の進行につきましては、増田会長にお願ひ申し上げます。

#### 【議長：増田会長】

それでは、本日の案件ですけれども、お手元の会議次第にございますように、「立地適正化計画の策定方針について」というのと、「富田林市の現状と将来見通しについて」という議題が2つございます。12時ぐらいを目途に意見交換ということでございますので、順次進めてまいりたいと思ひます。

それでは、まず最初に「立地適正化計画の策定方針について」、事務局より説明をお願ひします。

#### 【事務局：奥西】

それでは、次第2「案件（1）立地適正化計画の策定方針について」、ご説明させていただきます。

それでは、2ページをお願ひします。

立地適正化計画の背景としまして、人口減少・少子高齢化に伴い、地域によっては、医療、福祉、商業等のサービスの維持が困難になり、空き家等の増加も課題となります。このような課題に対応するため、平成26年に都市再生特別措置法が改正され、この立地適正化計画が創設されました。

この立地適正化計画は、いわゆるコンパクトシティと公共交通網の充実を図るネットワークを進める計画で、イメージ図にありますように、この法律に基づき、人口密度維持のため、

生活サービスやコミュニティが、持続的に確保されるように居住を誘導する「居住誘導区域」と、医療、福祉、商業等の都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に集約し、これらの生活サービスが効率的に提供されるように施設を誘導する「都市機能誘導区域」というゾーニングを設定し、かつこの都市機能誘導区域には、誘導施設を定めるものです。

具体例としまして、本日お配りしてありますものが、河内長野市の立地適正化計画になります。これは、2019年に策定されました。

この52ページをお願いします。

例えば、河内長野市では、紫色の実線で囲ってありますとおり、都市拠点として河内長野駅、地域拠点として千代田駅と三日市町駅の主要3駅周辺、および、行政拠点として市役所周辺、丘の生活拠点として南花台中心地を都市機能誘導区域と設定し、高齢者福祉施設や子育て支援施設、市役所支所などの行政施設、図書館などの文化施設や商業施設を誘導するとしています。

また、居住誘導区域としては、水色で示してありますとおり、都市機能誘導区域周辺を設定しています。

次に、元の資料に戻り、3ページをお願いします。

この立地適正化計画を策定する効果としまして、居住誘導区域を設定することで、人口密度維持により、商業や社会福祉などの日常生活サービス施設を存続することが期待されます。また、災害リスクの低い市街地に居住を誘導することで、市民の安全な暮らしを確保することができます。

都市機能誘導区域内においては、都市機能を集積することで、区域外への移転を防ぐとともに、区域外への誘導施設の立地を抑制することが期待されます。

また、「コンパクトシティ」と言いましても、例えば本市ですと、主要となる富田林駅周辺に居住誘導区域や都市機能誘導区域をすべて集約させて、強制的に短期間で移転や誘導を行う、というのではなく、日常生活に必要なサービスが、住まいなどの身近に存在する、多極ネットワーク型のコンパクト化を目指します。また、居住や施設の集約についても、計画的に時間をかけながら集約を進めていくものです。

次に、4ページをお願いします。

立地適正化計画に記載する内容の説明となっています。上から、本市は全域都市計画区域になりますので、立地適正化計画区域は本市全域となり、基本方針、居住誘導区域、都市機能誘導区域、防災指針、誘導施策の項目について具体的に設定したものを立地適正化計画の中に記載していくこととなります。

次に、5ページをお願いします。

立地適正化計画の検討の進め方について、国土交通省が示しております計画の進め方に基づいて、計画を策定していきます。

まず、総合ビジョン等の関連する計画や他部局の関係施策等を整理し、本市が抱える課題の分析、解決すべき課題の抽出を行います。次に、まちづくりの方針や目指すべき都市の骨格構造、課題解決のための施策、誘導方針を検討し、前のページに記載しております誘導施設、誘導区域、誘導施策を定めていくこととなります。その後、目標値等や施策の達成状況

に関する評価方法を検討し、立地適正化計画の素案を作成していきます。作成しました素案について、地元説明会などを行い、市民の意見を聴取し、また、本市の都市計画審議会の意見を聴取したものを反映させて立地適正化計画を策定していきます。

これに関しまして、ページが飛びますが、48ページをお願いします。なお、都市機能誘導区域内の施設整備に関しては、都市構造再編集中支援事業としまして、国から施設整備に関し、補助金が交付されます。

資料5ページに戻ります。

資料にあります「計画の進め方」の中で、赤色の点線で囲ってあります各項目の検討ポイントとしまして、まず「まちづくりの方針の検討」についてですが、効果的に施策を実施するため、誰を対象に、どんなまちづくりを目指し、実現するのかという明確なターゲットの検討が重要となります。

次に、「目指すべき都市の骨格構造、課題解決のための施策、誘導方針の検討」についてですが、先ほどご説明しました目指すべきまちづくりの方針に即して、誰にどのような行動を期待するのかを見据え、どこを都市の骨格にするのか、本市が抱える課題をどのように解決するのか、どこにどのような機能を誘導するのかを具体的に構築していくことが重要となります。

この誘導方針を検討した後、都市機能誘導区域や居住誘導区域をどう設定するのか、都市機能誘導区域にどんな施設を設定するのか、その設定した施設を誘導するためにはどんな施策を講じていくのかについて定めていきます。

参考としまして、河内長野市の立地適正化計画の45、46ページをお願いします。

河内長野市では、課題として、若年層の市外流出や府内でも高い高齢化率であることなど人口に関する課題と、郊外住宅地のバス交通の需要減少や商業機能の郊外化など都市づくりに関する課題をあげています。この課題解決に向け、子育て世代、高齢世代をターゲットとし、拠点周辺では商業、娯楽の充実による魅力向上や住み替え支援など、郊外住宅地では住環境の保全、空き家、空き地の多目的な活用など、それぞれの地域の特性を生かした施策を立てています。

次にこの58ページ、59ページをお願いします。

図の中に水色で示している部分が河内長野市の居住誘導区域です。

河内長野市独自の名称ですが、まちなか居住集積区域という名称で居住誘導区域を設定しています。拠点の徒歩圏内である区域、基幹公共交通にアクセスしやすい区域、土地利用の高密度化が可能である区域を総括したものを居住誘導区域に設定しています。

まず、拠点の徒歩圏内である区域として、鉄道3駅の周辺800m圏域および行政拠点、丘の生活拠点の周辺500m圏域を基準としています。次に、基幹公共交通にアクセスしやすい区域として、基幹公共交通軸のバス停周辺300mを基準としています。

次にこの71ページから74ページをお願いします。

各ページにあります区域図の中で赤色の実線で囲っている部分が河内長野市の都市機能誘導区域です。

河内長野市では、現状の施設立地状況や、市が目指す将来都市構造を踏まえ、都市機能誘

導区域として、河内長野駅、千代田駅、三日市町駅の主要3駅周辺と、行政拠点として市役所周辺、丘の生活拠点として南花台中心地を設定しています。

次にこの79ページをお願いします。

誘導施設の設定にあたっては、都市機能誘導区域内に現状で立地している施設を設定することを基本とし、それに加え、今後の拠点形成の方向性を見据えたうえで、新たに立地を誘導することが望ましい施設を定めています。

河内長野駅及び行政拠点周辺の区域を例にあげますと、誘導施設として、病院、子育て支援センター、各種学校、図書館などの生活関連施設や総合スーパー、金融機関、市役所など行政・商業施設を誘導施設に設定しています。

次に、元の資料の6ページをお願いします。

「立地適正化計画の策定方針」についてですが、人口減少・少子高齢化に対応したコンパクトなまちづくりを推進するため、都市全体の構造を見直し、特性に応じて移住機能や医療・福祉・商業・公共交通等の都市機能にかかわる適正な誘導方針や誘導区域等を検討し、都市全体を見渡すマスタープランとして位置づけられる立地適正化計画を策定することを目的とします。

従いまして、立地適正化計画は、都市全体という観点から、下の図にありますとおり、公共交通施策・商業施策・住宅施策・医療・福祉施策・防災施策など多様な分野の計画との連携が求められます。

また、本市の今後の市政を長期的な視点で、総合的かつ計画的に推進していくための基本的な指針である「富田林市総合ビジョン」、および都市計画区域の整備、開発及び保全の方針である「南部大阪都市計画区域マスタープラン」に即す必要があります。それらに加えて、本市の都市計画の基本的な方針である富田林市都市計画マスタープランとの調和を保たなければなりません。今後、都市計画マスタープランの見直し時には、立地適正化計画の内容を踏まえたうえで、必要な見直しを行うこととなります。

次に、資料7ページをお願いします。

立地適正化計画は、多様な関係者による議論を経て作成、実施されることが望ましいことから、本日お集りいただいております策定委員会の皆様と、本市の関連部署の職員で構成された庁内検討会議の両方の意見を反映し、計画原案を策定することとなります。

また、まちづくりへの市民参加の機会を設けることは、重要であると考えております。市民の意向を反映させるため、地元説明会やパブリックコメントの実施を予定しております。

これらを経て、計画原案を策定しましたら、都市再生特別措置法第81条第22項に基づき、富田林市都市計画審議会への諮問を行い、意見を踏まえて、立地適正化計画を策定します。

次に、目標年次について、立地適正化計画の計画期間は、おおむね20年後の都市の姿を展望することが求められています。計画策定を令和4年3月の予定をしておりますので、その時点から20年後を目標年次に設定します。また、おおむね5年ごとに計画に記載された施策・事業の実施状況や妥当性を検討するとともに、前のページのとおり、上位計画との整合性を踏まえ、必要に応じて適正に見直し等を行います。

最後に、8ページをお願いします。

今後のスケジュールについて、記載しております策定スケジュールに沿って進めていき、2ヶ年で計画を策定することとしています。本策定委員会については、2ヶ年で7回程度開催させていただき予定をしております。

なお、次回策定委員会については、後日日程調整のご連絡をさせていただきますので、委員の皆様にはご協力賜りますようお願い申し上げます。

以上をもちまして、簡単ではございますが、次第2案件(1)「立地適正化計画の策定方針について」の説明とさせていただきます。

**【議長：増田会長】**

ありがとうございます。

只今、「立地適正化計画の策定方針について」ということで、ご説明いただきました。

何かご意見、もしくは、ご質問等ございましたら、いかがでしょうか。

1つ、私の方からですけど、9ページ目の具体的な策定スケジュールというのがあって、地元の説明会とかパブリックコメントというのが、かなり案が煮詰まった辺りで考えられていますよね。ところが、計画の進捗としましては、都計審にも中間報告を何回かしていただいて、今年度末までにはある一定の骨格が見えるわけですよね。その辺りで、一度、地元説明会なり、あるいは、市民の方々の意見を聞いておく必要性がないのかどうかというところなんですけどね。丁寧にするところは、各地域でワークショップをしながら、そこででてきた意見を吸い上げて、これに反映させていくというふうなプロセスをとるんですけど、そこまで緻密にできなければ、少なくとも最後一回のパブコメではなくて、何らかの形で中間報告ぐらいの辺りで市民の意見を反映できる、あるいは、お聞きするような機会が持てないのかという。あるいは、アンケート調査みたいなことをどう考えられているのか、事務局の考えを教えてください。

いかがでしょうか。

**【事務局：福元】**

アンケートに関しましては、都市計画マスタープランを平成30年に策定しております。直近に市民向けにアンケートは取っていますので、そちらで概ねの意向は確認できるのかなと考えております。

地元説明会についてはですね、ちょっとこの2年目、令和4年度のこの工程を、まだちょっと煮詰め切れていない部分がありますので、そこはちょっと検討を今後していきたいと考えております。

**【議長：増田会長】**

多分、今年度末なのか、あるいは、令和4年度の頭なのか、何らかの形で、一度、骨格が見えた辺りで、一度、市民の意見をお聞きするという機会を是非設けてほしいと思うんですけどね。

他に何かお気づきの点はございますでしょうか。いかがでしょうか。

それでは、この方針に基づいて前に進めていっていただくということでよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、続きまして、「富田林市の現状と将来見通しについて」ということで、我々きっちり現状を認識するということは非常に重要だと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

#### 【事務局：田中】

それでは、次第2「(2) 富田林市の現状と将来見通し」について、ご説明させていただきます。

それでは、12ページをお願いします。

まず、人口動向について、ご説明させていただきます。

本市の人口は、2000年をピークに減少し、下側のグラフ、人口推移と将来見通しによりますと、国立社会保障人口問題研究所の推計では、2040年に、人口が約7万8,000人となります。

次に、14ページをお願いします。

これ以外の推計指標では、第2期富田林市まち・ひと・しごと創生総合戦略における人口シミュレーションでは、2025年以降出生率が上昇したと仮定した場合、上側の図のオレンジのグラフにありますように、2040年に、約8万9,000人となり、さらに、その仮定に加えて、下側の図の2025年以降社会移動がゼロと仮定した場合、赤のグラフにありますように、2040年に、約9万6,000人となると推計しております。

次に16ページをお願いします。

①総人口の動向では、100メートルごとのメッシュで将来人口を推計したものとなります。ここから、2045年の人口の増減率は、ほとんどの地区で減少し、特に金剛団地や喜志駅周辺などで、濃い青色の50パーセント以上の減少となっています。次の17ページの②年少人口、次の18ページの③生産年齢人口別の動向も同様の傾向にあります。

また、次の19ページの④高齢者人口の増減率にあつては、特に旧市街地、金剛東地区において濃い赤色のとおり、増加することとなります。

次に、20ページをお願いします。

上側の図、地図の⑤地域別の人口見通しでは、都市計画マスタープランの地域区分である本市を8地域ごとに分け、2045年までの推計値を示しており、減少割合では東部、東南部地域が、人口の減少数では金剛地域が大きくなっております。

同じページの下側の図、⑥人口密度の動向では、2045年には、DID地区の基準である1ヘクタールあたり40人を下回るエリアが、富田林駅東側なども含め増加することとなります。

続きまして、土地利用について、ご説明させていただきます。

21ページをお願いします。

この地図は、本市の土地利用を示しており、市街化区域内の土地利用は、ほとんどが市街

地となっております。

次に、22ページをお願いします。

2) 市街地の変遷では、D I D地区人口において、2000年以降は、緑の三角のグラフの人口密度が減少傾向にあり、市街地の低密度化が進行しております。

次に、24ページをお願いします。

3) 空き家、低未利用地では、2018年時点で空き家率が13.4%であり、全国、府平均を下回ってはいますが、一貫して増加傾向にあります。下部の図は、空き家の分布を示しております。特に富田林駅周辺において増加の傾向があります。

続きまして、都市交通について、ご説明させていただきます。

25ページをお願いします。

まず、1) 交通手段ですが、本市都市計画マスタープランの改定に際して実施した市民アンケートでは、自家用車が最も多く、日用品については、70代を境に徒歩の割合が高くなっております。

次に、26ページをお願いします。

2) 鉄道では、近鉄、南海ともに利用者が減少傾向にあり、特に南海金剛駅と近鉄富田林駅の利用者数の減少が激しくなっております。

次に、27ページ及び28ページをお願いします。

バス交通では、市内にレインボーバスを含み4事業体のバスが運行していることから、路線の重複等があり、富田林駅や金剛駅前付近では、区間ごとの運行本数が1日200本以上の高頻度運行区間が存在する一方で、市域南部など交通不便地域が存在しております。

次に、29ページをお願いします。

公共交通の徒歩圏人口カバー率では、2045年においても、徒歩圏に住居する市民の割合は、現在と同程度の水準を保つことが予測されていますが、徒歩圏人口が約34,000人も減少していることから、公共交通の経営環境の悪化が懸念されることとなります。

続きまして、都市機能について、ご説明させていただきます。

次に、30ページをお願いします。

商業施設の徒歩圏人口カバー率でも、先程の公共交通と同様の傾向であり、商業施設経営環境の悪化が懸念されることとなります。

次に、31ページをお願いします。

また、買い物先について、アンケートでは、日用品であれば富田林駅周辺、金剛駅周辺、金剛東地区周辺が多く、日用品以外であれば、その他が多く、ほとんどが大阪市内等という結果となります。

次に、32ページをお願いします。

医療施設についても、先ほどの商業施設と同じような傾向がみられます。

大変申し訳ございませんが、資料作成が間に合わず、事前に配布することができなかったものを別冊資料として配布させていただいております。

その別冊資料の1ページをお願いします。

高齢者福祉施設の徒歩圏人口カバー率は、2015年から2045年にかけて若干増加す

ることが予想されるため、福祉サービスの維持が求められることとなります。

次に、別冊資料の2ページをお願いします。

本市の小・中学校、高等学校の分布を示しております。

次に、別冊資料の3ページをお願いします。

子育て支援施設の徒歩圏人口カバー率は、2045年では2015年と比べてあまり変化はありませんが、徒歩圏人口は、半分以下にまで減少することとなります。

次に、別冊資料の4ページをお願いします。

その他、公共施設分布として、市役所、警察署、消防署、法務局、府民センタービル、その他図書館等を示しております。

また、資料作成が間に合わず、更に別添資料となりまして大変申し訳ございませんが、富田林市公共施設再配置計画から抜粋しており、集会施設は28ページに、文化施設は30ページに、歴史文化施設は34ページに、スポーツ施設は36ページに、レクリエーション・観光施設は38ページに示しております。

次に、別冊資料の5ページをお願いします。

本市の都市公園、児童遊や農業公園サバーファーム、総合スポーツ公園等を示しております。

最後に、別冊資料の6ページをお願いします。

都市計画マスタープランにおける土地利用方針を掲載しております。

市街化区域を赤色の枠で示しており、都市的土地利用と自然的土地利用を図る土地利用調整エリアは、水色で示しております。

続きまして、自然災害について、ご説明させていただきます。

それでは、資料に戻りまして、33ページをお願いします。

1) 土砂災害では、黄色車線部分の土砂災害警戒区域のイエローゾーン、オレンジ部分の土砂災害特別警戒区域のレッドゾーンの大半は、市南部の市街化調整区域に分布しており、市街化区域内では、ごく一部にみられる程度となります。

次に、34ページをお願いします。

また、大規模盛土造成地の状況になります。

次に、35ページをお願いします。

2) 洪水では、想定最大規模の浸水想定区域は石川沿いで、特に市東部の被害が大きいと想定されています。

また、内水ハザードマップについては、36ページのとおりとなります。中野町企業団地等の一部で見られます。

続きまして、地価、財政について、ご説明させていただきます。

それでは、37ページをお願いします。

地価は、1995年から一貫して下落しており、2020年の平均地価は1995年当時の約4割の地価水準となっていることから、税収の低下が危惧されます。

次に、38ページをお願いします。

財政では、高齢化に伴い扶助費等が増加することになります。

また、39ページの公共施設等の更新に伴う将来負担では、2054年までの40年間に要する公共施設等の更新費用は過去の平均投資的経費の2倍以上の予算が必要との試算となります。

40ページから44ページについては、まちづくりの方向性としまして、先程説明いたしました関連する計画の概要を掲載しております。

今まで申し上げました、本市の現況を、45ページと46ページにまとめてあります。

次に、46ページをお願いします。下部の2解決すべき課題として、考えられますものは、まず、①拠点周辺への都市機能の集積として、拠点の特性を踏まえた生活サービス機能の維持・充実など。

次に、②人口減少、少子高齢化への対応として、子育て世代が住み続けたくなる定住環境づくり、誰もが健康に暮らし続けられる環境づくり、金剛団地の活性化とありますが、記載のあるもの以外にも、金剛団地を含んだ市内全体の多様な住居ニーズに対応できる住環境づくり、本市の特色であります歴史資産、農業資産を活かした交流・関連人口の増加も課題と考えられます。

最後に、③拠点と連携した公共交通ネットワークの形成として、だれもが移動しやすく、歩いて暮らせるまちづくりなど、その他記載はありませんが、金剛駅と富田林駅の2拠点のネットワーク強化などが考えられます。

今後、これらの課題を踏まえ、まちづくりの方針や目指すべき都市の骨格構造、課題解決のための施策、誘導方針を検討し、誘導施設、誘導区域、誘導施策を定めていくこととなります。

以上をもちまして、次第2「(2) 富田林市の現状と将来見通し」の説明とさせていただきます。

ありがとうございました。

**【議長：増田会長】**

はい、どうもありがとうございました。非常に、現況の長大なデータをご説明いただきましたけれども、ご質問あるいはご提言等、時間も大分ありますのでご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。どこからでも結構ですが。はい、山元委員どうぞ。

**【山元委員】**

はい、すいません、ちょっと資料についてもう少し教えていただきたいんですけど、32ページの「医療施設分布」のところで、多分これ甘南備の方だと思うんですけど、ひょうたん形してる一番下のところが、四角の赤になってるんですけど、これは、診療所と病院が一緒ってということなんですか。それとも、また別の何か四角の赤っていう印があるんですかね。それちょっと教えていただきたいです。

**【議長：増田会長】**

はい。いかがですか。事務局、はいどうぞ。

【事務局：田中】

すいません、ちょっと表記のミスで丸の病院になります。申し訳ございません。

【山元委員】

もう1点、その資料についてちょっと教えていただきたいのが、新しく今日配布していただいた「高齢者福祉施設」っていう最初のページがあって、めくって3番目の「子育て支援施設分布」のところで、喜志駅の左側にこども園と、それから赤いマークで幼稚園っていうのがあるんですけど、こちらは喜志西幼稚園のことでしょうか。

【議長：増田会長】

はい。いかがですか。

【事務局：田中】

申し訳ありません。ちょっと後日正確な名称をお伝えいたします。すいません。

【山元委員】

私もね、この資料を読んで、富田林が非常に人口減少、自分たちの方の仕事もですね、今ですね喜志西幼稚園とか、これは板持幼稚園とか東条幼稚園、東条はないと思うんですけど、そういうところが今閉園してるんですよ。それが何かものすごく人口減少と一致してて、自分も昔いた金剛団地もすごく、どんどんどんどん人数が減ってきて、もう富田林の中の本当に小さい学校が金剛団地にいっぱいあるんですよ。だからそういうことを思うと、この教育施設とか子育て支援施設っていうのは、もうまさにその煽りを受けてるといえるか、そういう感じがしましたので、もしあれやったら喜志西幼稚園は今閉園しています。ということで、はい。

【議長：増田会長】

わかりました。非常に大事で。従来までの、要するに、商業施設を中心にした都市機能というよりも、やはり生活全般を支えていく施設をですね、そういうやつの考え方みたいなやつは子育て支援やとか教育施設だとか文化施設も含めて考えていく必要性があると思いますので、ご指摘ありがとうございます。

はい。他いかがでしょうか。佐久間委員どうぞ。

【佐久間委員】

ちょっとデータについて2つと、あとは課題について意見を1つと思ひまして。

1つは、人口のところから16ページから20ページぐらいまで、増減率で示していただけてるんですけども、将来どうなるかっていう都市構造を考えるうえでは、何か増減率だけ見てると、何かもう人口減るんやで、やばいんやで、っていうようなメッセージにしかなら

ないと思うんですけど、やっぱり将来に、人口が今もちょっと閉園の話もありましたけど、減った人口に対してどう備えるかっていう観点もあると思いますので、1つはこの20ページの図の方が大事かなというふうに思っていますということと、あと河内長野の話もありましたけど、やっぱり住宅都市だと思いますので、世帯の分布というんですかね、世帯の密度ですか、可能であれば何か、将来の推計もあわせてといいますか、20年後の住宅の様子っていうのを考えたときに、その人口も大事なんですけど、世帯がどうなってるのかっていうのが、やっぱりその空き家のことですか、考える上では大事かなというふうに思っていますので、ちょっと世帯のデータもちょっとご検討いただきたいというのが1点目です。

2つ目は、空き家の話で24ページのところに、29年の調査を入れていただいているんですけども、半径800メートルと言わず、何かもうちょっと全域の情報を教えていただければと思いましたので、ちょっと調査の状況とかもあるかと思っておりますので、このデータしかないということであれば、しょうがないかなというふうに思うんですけど。意見というか要望という形で、まずはお伝えしておきたいということと、最後の課題のところが一番最後にお示しいただいてるところ、46ページの辺りなんですけども、ちょっと総合戦略にしても、立地適正化計画にしてもですね、人口減少をしていくことに対して、何かどう抗っていくかっていう考え方で多分、基本的な考え方ってなってると思うんですけど。ここ数年はそれでよかったと思うんですけど、多分あの推計通り、着々と人口が下がりつつあるというのが、実態だと思いますので、そういった頑張っていくシティプロモーションとかも結構熱心にやっておられると思いますので、そういう取り組みは大事だと思うんですけど、一方でやっぱり推計通り下がっていった時に、都市構造をちゃんと持続できるように、どう考えていくのかっていうふうに、人口減少に対して備えておくっていう観点での、何か計画の作り方っていうのも大事になってきてるんじゃないかなというふうに思います。

ちょっとぼんやりした話で恐縮なんですけど、②の「人口減少、少子高齢化への対応」というところで、書いてることはこの通りかなというふうに思うんですが、河内長野の話とも照らし合わせてなんですけれどもやっぱりこう、住宅だけの町っていうのがちょっともう、なかなかしんどくなってるんじゃないかなというふうにも思います。

特に河内長野の方は、結構産業用地がないっていうので大分苦労されてると思いますし、富田林それに比べると、産業用地がしっかりあると思いますし、調整区域の農業まだまだなんかしっかりしてると思いますので、むしろ強みだと思いますし、でも、コロナの話じゃないですけど、やっぱりこう住むだけで通っていくっていうような生活様式っていう形でもそうですし、やっぱりどうやって税収を上げていくのかっていう観点でも、やっぱりこう住むだけの町ではなくて、何かこう、生活は生活としてきちんと支えるんですけど、やっぱりこう、何か副業であったりですか、スモールビジネスであったりですか、色々ライフスタイルの実現みたいなところで、生活のあり方みたいな、何かとらえ直していくっていうような、何か課題感というか価値感みたいなもの。ちょっと次回以降の話かもしれないんですけども今日は多分項目だけを挙げられてると思いますのでちょっと勇み足かもしれないんですけども、ちょっと感じることで最後1点申し上げました。

【議長：増田会長】

はい、わかりました。ありがとうございます。今日は初めてですので、大いに課題認識、あるいは次の展開論に向けて、お考えを聞かせていただければと思います。ありがとうございます。はい。船本委員どうぞ。

【船本委員】

丁寧な資料ありがとうございます。人口がもう減るっていうことは、どう考えても確実なので、それに対してどう対応していくのかっていうところだと思ういます。それは多分異論ないと思うんですけども。今この立地適正化計画っていうのは、ここ近年始まったというふうなもので、河内長野でも2019年度、富田林でこれからっていうふうなところなんですけども。この中で出てきているコンパクトシティという、ちょっと誤解があるかもしれないけどっていうようなところの説明がありましたけども、一定程度機能を集約して、そこでは確実に様々な提供サービス提供ができるっていうふうな生活できる、施設資源というものを集積しておくっていうふうなところ、一応、1つポイントとして入ってると思うんですけども、立地適正化計画としては今現在スタートですけども、もしこれまでそういうコンパクトシティというふうな考え方であったりとか、様々な集約をした都市計画というところで、参考になるようなものが、地域というのがあれば、それ1つ教えていただきたいなと思います。今多分おそらく手元にすぐそれが出てこないと思うんですけど多分参考になるのかなと。すでにそういうところっていうのは人口減少が始まっていて、この適正化計画というのは考え以前から取り組んでいたところだと思いますので、こういうふうな参考例があるよっていうことと、その参考例っていうのは、いわゆる取り組みとしてある程度成果があったっていうふうな部分と、あまりどこの行政でも宣伝はしたくないと思うんですけど、ちょっとまずかったなっていうようなところ、そういうものがあると富田林市としても後からスタートする行政としての強みかなと。他のところのものを参考にして取り入れることができるのかなあと思ったので、そういう情報があったら探してきていただいて共有できたらなと思ってます。様々なデータいただいて現状というところで、福祉の領域の人間なので、生活関係福祉サービスだったりとかそういう生活関連施設っていうようなものでとても関心があるんですね。で、一定程度富田林市内ではある程度の圏域ごとで、これまで高齢であり子育てでありっていうなところを検討して、それぞれの区域にある程度、均等には言わないですけども、区域ごとにしっかりとそれを整備してきたっていうふうな、そういうふうなことはしっかりやってきはったと思うんです。で、そこが現状なんですけど、一定程度集約して誘導するっていうふうなことであるならば、今現在置かれているものを、移動させるというふうなところまで考えるのかというところですよ。現状はこうだけでも、じゃあ20年後こうしましょうねっていうような形で駒のようにポンポンと移動させられるようなものではないと思うんですけども、それも1つ必要なかもしれないなっていうふうなところの懸念1つと、ただ必要なことではあるなというところ。なのでそこまでの見通しまでちょっと考えないと、もしかしたらいけないのかもしれないなっていうふうに思っています。

最後、もう1つなんですけども、そこに住んでる人がいる限り、必ず安心して住み続けて

くださいねっていうところのサービスが届けられるような体制は必要だと思うので、集約することだけではなく、分散もやっぱり必要なんだろうなと思うんでその兼ね合いをこの中でどこまで考えていくのかなあというふうには気になってます。多分これからのまちづくりっていうところで拡大していくものではなく、ある程度人が減っていくっていうところで、集約しつつ、まちをつくっていくっていうところは1つ考える方向性なんだろうと思うんですけども。ただ本当に歴史のある町なので、本当にいろんなところで住んでるので、その人たちにこういうふうな方向になったからちょっとここから撤退しますねっていうふうなこと、それちょっと絶対ありえないと思うので、そこをやっぱりしっかりと維持しつつ、守りつつですね。やっぱり田畑山林とっても多い市なので、守りつつ、でもしっかり市としていろんなものが維持できるようになっていくところの兼ね合いっていうのを多分ここですべて考えるべきことではないと思うんですけども。最後まで住み続けられるというふうなところ、やっぱり大事にできるような、そういうふうなものも必ず入れなきゃいけないなっていうなところを思ったので、最後のちょっと気になったことということで、はい、ありがとうございます。

**【議長：増田会長】**

ありがとうございます。はいどうぞ。置田委員どうぞ。

**【置田委員】**

すいません。私も住んでるのは、富田林の西の端の方の五軒家というところなんです。藤沢台6丁目7丁目、住宅地があるんですけど、そこに住宅地でありながら、生産緑地としてね、皆残ってあるんです。ところがあの辺がね、非常に環境がいいんかして、すごく皆住みたいと言われるけど生産緑地になってるために土地が売れない。特に五軒家の中なんてね、大阪狭山市は駅から10分ぐらいなんです。村はもともと250軒ぐらいあったんですけど、道幅が狭いところに建てられるだけいっぱい建ててね、今500軒ぐらいなってるんです。うちらでもよく土地があったら売ってくださいと。それぐらいね五軒家の方がなんかね人気があっがいいんですけど、人口増えるのはいいんですけど、むしろ道路は整備できてない。環境の良いところに、そうやって道路もついて、ガスの水道も全部ついてのに生産緑地は残されておる。こういうふうなものとかね、せっかく住宅地、生産緑地で残してあるんですけど、あの土地は非常にもったいないと思うんです。せっかくこういうような計画を策定されるんやったら、そういうものなんか見なおして、家建てるように。せっかく住宅地になってるんですから、考えてもらったらいいと思うんです。

**【議長：増田会長】**

はい。そういう形で、またお願いいたします。なかなか生産緑地は、従来はどちらかという宅地供給を促進させるために、きっちりと宅地並み課税、課税をしながら住宅供給用地として吐き出してもらうちゅう政策やったんですね。ところが近年は、どちらかという都市環境維持上、要するに残すべき施設というふうな方向へ国全体としては変わっていった

もんですから、それを何らかの意味で住宅供給エリアとして吐き出せと市場に、とそういう施策っていうのは今の日本の情勢では非常に難しいですね。どちらかというとならば都市農地振興基本法ができて、都市にあるべき施設というような形になってるもんですから。昔は違ったんですね。昔はどちらかというとならば宅地が不足してるので、ちゃんと吐き出すようにしなさいというのでなったんですね、特に首都圏で宅地が非常に高騰化した時に。それに対して今は、やはり全体的傾向としては、もう宅地需要はないので、何らかの意味で都市環境あるいは都市生活に役立つような形で、使いこなしてくださいっていう方向にいとると。ただ、局所的な現象としては一概にそう言えないので、それをどこぐらいまで書き込めるかということだと思えますけどね。

#### 【置田委員】

大きなところはただ1軒で40件分ぐらい持ってある。全部そのまま置いてありますから1つも家が建たない。

#### 【議長：増田会長】

その辺りがダイレクトに吐き出せちゃう話にはならないんでしょうけど、例えば先ほど、佐久間先生がおっしゃっていただいたように、住宅都市から脱却していく中での、例えばやっぱりワーキングスペースみたいなやつをどないかして増やしていくとか、どないかして形づくっていくような、そういう施策の中で、有効活用みたいなそんなシナリオが要るんかもしれないですね。ただ住宅需要があるから、住宅地として転換しろみたいな話じゃ、なかなか一概に難しく、むしろ市全体としてはやはり、少し多機能型都市へ変えていくための施策としてというふうな、なんかそんな大義名分が要るのかなと思うんですけどね。

はい。ありがとうございます。他いかがでしょうかね。はい。柳原委員どうぞ。

#### 【柳原委員】

はい。柳原です。私の方からちょっと交通のことに関して、意見とちょっと質問等があります。まず27ページ、29ページの交通のところ、バスの輸送人員とか、鉄道は簡単に多分出していただけたらと思うんですけど、バスの方がちょっと出していただけたら。金剛バスさん、近鉄バスさん、南海バスさんにどれぐらい乗っているのかというのがありとわかりやすいかと思えますので、もし可能ならばバスの輸送人員等いただければと思います。で、29ページの公共交通の徒歩圏なんですけど、これ考え方が色々あるんですけど、やはり今後高齢化していく中で高齢者がたくさんいるということを見ると、鉄道駅から800メートル、バスから300メートルっていうのは一般的にはよく使われるんですけど、もうちょっと狭いほうがいいのかな。例えば鉄道駅から600、バス停から200で考えてみたらどうなるのかみたいな、シミュレーションをいただけたらいいかなと。特に、平地で考えていますが、富田林の山側に行ってもかなり坂とかがありますので、坂があつて高齢者の人が300メートルバス停まで歩けるのかと言われると、ほとんど歩けませんので、この図だけで考えちゃうと、やっぱり公共交通で今回8割いけてますよということなんですけど、おそらく実情はも

っと少なくなってしまうので、その辺りは考えた方がいいかなと思います。で、公共交通はですね、立地適正化計画において非常に重要、連携していかなければならないかと思うんですが、やっぱりちょっと時間軸がかなり違うような気もしていて、そこは難しいかなと思っています。公共交通は今住んでおられる方が特にやはり不便で、じゃあどうしなければならぬか、特に山側とかに住んでるとか交通不便地域に住んでる人が今どう動けるのかというようなところと、立地適正化計画ではだんだん寄ってきてくださいねというようなところがあるんですが、その狭間ですよ。寄ってきて集約されつつある中で、まだ郊外に住んでいる方に対して、どういうふうにサービスを提供していくのかというようなところが、重要かなと思いますので、その辺りちょっと、今住んでおられる方に対してどういうサービスを提供するのかというところと、将来像との兼ね合いのところも重要かなと思いますので、そのあたり市の方でもですね、公共交通計画との連携をされるかと思いますがその辺をちょっと考えてくださいというところですよ。

あと、これが交通の話で、31ページの人の移動のところなんですが、図を見るとですね日常的買い物とかで、いわゆる金剛駅とか先ほどおっしゃってた大阪狭山市とか、あるいは河内長野駅にもあるかもしれませんが、いわゆる生活圏が、富田林市外にある居住地の方が結構おられますよね。特に金剛駅周辺とか、になるとですね結局、大阪狭山市の方に生活拠点がありますよというように人たちに対してどうするのかというところですよ。市の連携がもしできるなら一番いいんですが、やっぱり富田林市だけで考えて、寄せていきたいと思いますとなると、富田林駅の方に寄っていくんですが実際の生活圏は、大阪狭山市にあたり、一部の人は河内長野にあたりするので、そのあたりをどうするかというところをちょっと考えていく必要があるのかなと思っています。

あとすいません、3点目はですね、子育て世代の流入とか流出のデータとかっていうのは、あるんでしょうか。やっぱりですね、ある市によったらですね、子育て世代でちょうど小学生上がるぐらいに他の市に流出してしまうとかっていう。この辺では和泉市とかが結構人気で、子育てするならあっちに行くみたいなことがあたりするので、その辺りでどこの方に流出しているのかとか、あるいは、あまり流出していないならばどういう原因があるのか。おそらく、富田林市の人口減少を止めるためにもですね、他から取ってくるという考え方がありますが、基本的にやっぱり、生まれ育った地域でそのまま育っていただけると。他に出て行かずに、やっぱり富田林市が住みやすいので富田林市ですとずっと住み続けたいですと、最後の方にも書いてますがそういうようなまちづくりを目指すべきなので、そのあたりのもし流出とか、子育て世代のデータがありましたら、ご提供いただくとありがたいです。はい。以上でございます。

**【議長：増田会長】**

はい、ありがとうございます。

ちょっと、私なりに何件かあって、1つは、20ページですね。

いただいているデータが、どちらかというと、点的データなんです。鉄道駅からの話だとか、あるいは、各施設からの徒歩圏の話だとか、そういう点情報なんです。いただいて

いるデータの全部が。やっぱり、今回考えていくので重要なのはやっぱり、富田林市の生活圏というのはどんな構造で形成されているのかという、まずそれを明らかにしないといけないのかなと。それでいくと、例えば20ページのところでいうと、北部は喜志駅にぶら下がっていると、中部は富田林駅にぶら下がっているんですかね、中南部も基本的には富田林駅にぶら下がってて、どちらかという、東部、東南部も富田林駅にぶら下がっているんですね。バスなんかの動きをみると。それに対して、金剛、金剛東、西南部の辺りは、どちらかという、金剛駅にぶら下がっているところが非常に多い、もしくは、少し複雑な構造で、金剛、金剛東は鉄道駅にぶら下がらない都市拠点的なものがニュータウンとして存在していると。そういうふうな中の生活圏域、あるいは、鉄道駅とかバス網を中心とした生活圏域の中で各々の施設がどういう充足状況にあるとか、あるいは、各々の生活圏域の中でどれぐらい世帯数が減っているのかとか、年齢別人口の流入の動きがどうなっているのかというのを、市全体で見るというよりも、生活圏域別で捉えて、戦略に繋げていく必要があるのではないかと。多分、鉄道駅が、全て都市機能集積エリアかという、そうではないと思うんですね。滝谷不動駅など小さな駅がありますが、それが必ずしもバス網と一体化してなくて、そこが都市機能の集積ではないようなことがあるんですね。だから、その辺の都市構造、あるいは、生活圏域みたいなやつを具体的にどう設定して議論していくのかという、その点をきっちり一度詰めていただきたいと。それが非常に重要になるのではないかなと思うんですね。全てのデータが。メッシュで見るのではなくて、生活圏域ごとに教育施設の充足性とか、あるいは、人口が減るので、この圏域の中では、極端なことを言うと、幼稚園を維持できませんとか、あるいは、小学校維持できませんとか、そんなことが明らかになってくるので、そういう見方をしないと、このメッシュデータ的な見方をすると戦略へなかなか繋がっていかないので、生活圏域で見ただけじゃないかなと。

もう1つ非常に重要な話が、やはり、将来に向かって投資をしていくところと、住み続けられる、要するに、縮退したり、撤退していくのだけでも、幸せに住み続けて欲しいという施策を具体的に、どれぐらいネットワーク論としてカバーしとくかと、これは交通もそうですし、買い物難民なんかにしてもそうですし、今住まわれている方々をサポートする施策をどう考えるのかと。例えば、この頃、買い物だと、今までどちらかという、コミュニティバスというのは、公共施設しか寄り付かなかったけれど、買い物の行動というのは必要だから、買い物施設と連携させるようなコミュニティバスがいるとか、あるいは、反対に、この頃、移動販売みたいなものが、コロナ禍で非常に充実してきてますので、そういう移動販売みたいな仕組みを企業と一体となってどう創っていくのかとか、あるいは、公共交通も今までのバス、鉄道に依存しない、個別の公共交通、あるいは、コミュニティ交通というのですかね、そういう視点というのは非常に重要。あるいは、オンデマンド交通と言ってもいいのかもしれないですけど。そのあたりを具体的にどう考えていくのかと。それをやっとなないと、先程も一番最初に住民の方々の意見を途中で聞いてほしいというのは、なんとなく自分が見捨てられたような感じになって、市街化区域だけど居住誘導区域から外されたエリアに住んでいるとか、非常に人口減少を許容したようなエリアに住んでいるみたいな話になると、見捨てられたような感じになるので、それは、きっちりフォローアップしていますというふ

うな意味も兼ねて、少し途中段階で市民の方々の意見を聞いておかないといけないだろうと。そのようなあたりが、少し気になったところでございます。

そういう見方をすると、空き地、空き家なんかも、ニュータウンの中での空き地、空き家の発生と、集落エリアの中での空き地、空き家の発生と既存集落の中の空き地、空き家の発生の対応の仕方は、必ずしも一緒ではなくて、違った対応の仕方をしていかないといけないんだらうと思うんですね。だから、既存集落とか農村集落での空き地、空き家みたいな話は、農業政策と一体になったような、アグリツーリズムやとか農業政策と一体となったような展開しないといけないでしょうし、ニュータウンの中での空き地、空き家、特に空き家みたいな政策は、やはり、公的賃貸住宅なり、その施策としてどう展開していくのかみたいな話になるでしょうし、既存集落の中、特に寺内町なんかで言うと、ちょっと違うシティプロモーション的な形での対策をしていかないといけないみたいな。生活圈域に応じて、あるいは、地域の実情に応じて、同じ人口減少やとか、同じ空き地、空き家の発生の仕方だけど、それに対する、対応策というのは異なってくると思うので、そんな見方をしたいなというふうなことを思っております。

他いかがでしょう。今日はもうちょっとだけ時間が、12時までやる必要はないと思うんですけど、もう少し今後に向けてと。

先行事例が、少し成功してる先行事例と、失敗した先行事例はないかという、船本委員からの指摘があったんですけど。偶然といいますか、立地適正化計画の第1号は大阪府下の箕面市なんですね。私そこの都計審の会長してたもんですから、そこで作ってるんですけど、幸いなことにというか、箕面市はやはりまだ人口減少じゃなくて、人口増加の都市なもんですから、本当の意味で、人口減少が非常に、河内長野とか富田林ってやっぱり旧の市街地と丘の上の住宅開発みたいな話と、非常によく似た状況で、そういうあたりの参考事例を少し探していただければ、面白いかもしれないですね。

あと、いかがでしょう。

はい、柳原委員どうぞ。

#### 【柳原委員】

すみません。ちょっと先ほど言い忘れてたんですが、交通のところでもう1点、公共交通以外に徒歩と自転車の分担率が高いので、この辺りもちょっと考えていかなければならないかなと思います。

特に高齢者の方が、徒歩で移動できるように道路のバリアフリー化ですとか、あるいは、自転車ですね。

特に高齢者の方が、免許を返納した後、どういう公共交通に転換するのと言われると、やっぱり公共交通がいいんですが、公共交通じゃないとやっぱり自転車、多分、富田林も自転車が増えるかと思しますので、やっぱり自転車で安全に走行できる空間というような、自転車走行空間等も考えていかなければならないかと思しますので、都市を集約する上で、徒歩とか自転車の交通安全施策というの併せて行っていく必要があるかなと思っております。

【議長：増田会長】

自転車と言いますと、従来までの自転車の概念とは、かなり変わって、電動機付の自転車ということになると、かなり坂道に対しての抵抗が非常に少ないんですね。

それと、少し移動距離が延びてるのかなど。今までの足漕ぎの自転車とは全く違う。私は、違う交通手段と考えてもいいぐらい利用されていくんだらうと思うんですけどね。

従来だと、大阪市内の平坦地のところだと自転車はいいけど、こういう金剛だとか、泉北ニュータウンだとか坂のあるところでは不便だと言われたんですけど。ほとんど負荷がかからずに、平坦地を走ってるのと同じような形で自転車が丘陵地でも使えるんですね。

そうなる、今おっしゃっていただいたような走行環境の整備だとか、自転車をどう上手く使いこなすのかと。

多分、年老いていくと、最初に放棄するのが免許ですよ自動車の。その次に自転車で、最後に残るのが徒歩みたいだから、そんな考え方の中で展開する必要があるのかなど。

ありがとうございます。

堺なんかでもそうなんですけど、自転車の都市と言いながら、要するに自転車利用イコール環境整備されないと、反対に事故の発生が多くなってしまいうまいな。

【置田委員】

特にね、金剛団地なんかは5階建てで、エレベーターが無いんですね。

もう高齢化になってくると、荷物を持って5階まで上がられへんと。だから、どんどん5階が空いてきて。

【議長：増田会長】

そうですね。その辺は、多分、先ほど言った、住宅事業者、供給事業者ですよ。富田林の場合は、URが中心ですよ。

あまり府営住宅なかったんでしたっけ。あまり府営市営はないですよ。だから、そういう面でいうと、URの住宅政策にどう対応してもらおうかと。住みかえであったりとか、住戸改造であったりとか、単純に今までみたいに、建て替えを全面的にあるっていう話ではなくて。

【山元委員】

参考にですけど、URの件なんですけどね。

多分、空き家っていうのは、高辺台が多いと思うんです。なぜかと言うと、2DKとか小さいんですね。久野喜台とかになると、少しお部屋が大きくなるからということで、最初に建てられた小さいところというのは、全く人気がないのと、置田委員がおっしゃったように、エレベーターがないということ。だから、だんだん独居老人が多くなっている状態ですね。

【議長：増田会長】

そういう面では、今の生活スタイルに合わない住宅の住戸みたいなやつをどう改造するのかと。ある意味、停滞層でいうと、URの賃貸の停滞層と、もう1つ、見逃しちゃいけないのが独立住宅の停滞層。昔は住宅双六でいくと、独立住宅を試作したら双六の上がりだったんですけど、今、独立住宅を取得したから、それが人生の双六の上がりではなくて、途中経過なんですよね。だから、その辺りをどう考えるのかと。かなり住みづらくなるんですよね。独立住宅で独居老人とか高齢者世帯など。そのあたりも非常に重要な視点になってくるんでしょうね。

ありがとうございます。

他はいかがでしょう。

特によろしいでしょうか。

あと、もう1点、例えば人口減少を受け入れた政策にするということになれば、今書いてある施設とか鉄道駅とかここ書いてあるんだけど、例えば、本当にこのバス路線が維持できなくなる事が想定された時に、どれだけ交通難民エリアが発生するかとか、これだけ人口が減って行って小中学校が統合化されたら、統合化の必要性みたいな話はどういうところに発生してくるかとか。本当はそういうことを考えないといけないと思うんです。要するに、人口減少を受け入れて計画をしていくという話になると。だから、これは全て今の分析ですよ。

これに対して、人口が何万人ぐらいになるんでしたっけ。9万人前後ぐらいになるというふうになった時に、今、立地している施設が、それに全部適用できるのかどうかと。

他はいかがでしょう、よろしいでしょうか、第1回目としては。

あと産業誘致とか、企業活動みたいな視点からいうと何かございますかね。

#### 【置田委員】

今のところは、富田林工業団地はいっぱいなんです。これ以上もう延ばすにも、土地がありませんし、どこかもう1箇所工業団地が造れるような場所があればいいんですけどね。

#### 【山元委員】

その点について、お聞きしたいというか、教えていただきたいと思うんですけど、中小企業団地で、先ほど佐久間委員が河内長野と富田林の違いって、そういう工業団地を持つてるといことなんですけど。

ちょっと聞いた話なんですけど、中小企業団地って言っても、割と小さいんですよね。なので、結構、会社が高速道路の通った大きい、今はもう車の社会なので、大きいところへ逃げていくって言ったらおかしいですけど、中小企業団地から出て行くところが多いっていう話を聞いて、この富田林の中小企業団地は危機というか、詰まりかけてるような話は聞いたことあるんですけど。そのあたりが、富田林を支えるお金も入ってくることなんですけど、どうなっているのかなというのは、もし、何かそういう資料があったら、どれだけが出て行くとか、回転とかも知りたいなというのはちょっと思いました。

### 【置田委員】

中小ばかりで富田林は集めてますから、大きな会社はほとんどいてないです。

だから、高速道路がつけば、また企業団地もとても良くなるんですけどね。いつ頃つくのか分かりませんが、もう決定したとか言ってますけど。

### 【山元委員】

交通のこともですけど、喜志駅も金剛駅に次いで乗降客数が多いと言うけど、あれは喜志地区の住民じゃなくて、芸大の学生さんですよ。なので、そういうことを思うと視点が変わってくるのかなと。

実際に、喜志地区なんですけど、スーパーも小さいところが1件、梅の里に1件という感じで、自分が買い物に行くとしたら車に乗って、和泉の方に行ったり、奈良の方に行ったりとかしてます。これ本音ですけど、今、お買い物の件もそうですけど、若い人がどんどんこれから20年後、免許をほとんど持っていると思うんです。そうすると、すごく色んな生活のパターンが変わってきて、少々遠くても、少々ガソリン代がかかっても、安くて大量に買えるところを目指していくっていう、こんな年寄りの私でもそうですから。なかなか地元のところには、先ほどおっしゃったように、自転車とか徒歩というふうな近くの人しかなかなか利用しなくてどんどん厳しくなるのかなと思います。置田さんには申し訳ありませんが。

20年後には層が全然変わると思うんです。そのあたりがどうなっていくのかなと。先生がおっしゃったように自転車もこけたりして、年寄り危ないですよ。シニアカーとか、そういうものでちょこちょこお買い物行く人も増えるかもしれないけども、道路にちゃんと優先で通れるところとか、そういうのもまた整備していかなくちゃ駄目だと思うんです。自分ももうそろそろ免許を返上しなくちゃになってきて、本当に色々悩みます。すいません、私見ですけど。

### 【議長：増田会長】

ありがとうございます。

あと、もう1点、富田林の特徴として、大阪府下でも比較的農業の元気な都市ですので、ちょうど今、活性化基本計画も作られてるといふふうにお聞きしてるんですけど。

要するに、農村集落エリアみたいな辺りは農業政策の中での人口定着だとか、農家の空き家の利用だとかというふうな施策が出てくるでしょうから、何かそれを上手くここに反映させていくような。ここに産業の視点がこのデータとして全くなくてですね。その辺りも、町全体の活性化とか税収とか考えると、必要なあたりで、そこはひよっとしたら強化しないといけないかもしれない。

多分、置田委員に入っていたいただいているのは、産業の重要性があって入っていたいただいているんですけど、データとして産業のデータがないということで、そのあたりが、必要なんではないかなと。

あと、今日は防災の先生がいらっしゃらないんですけど、地下先生がお休みですけど、防災をどう考えるのかと。異常降雨とか異常気象が続いてますよね。それに対してどう考え

ておくのかというのは、今後、かなり100年に1回とか、200年に1回の雨がしょっちゅう降ってますから、その辺りのところは大きな視点として、今日いらっしゃったら、多分、そういう発言をいただけるんだろうと思うんですけど、そこはやっぱりきっちりと詰めとかなないといけないと思うんですね。特に、石川があるということと、もう1つは、急傾斜地を持ってるといふ2つの視点ですよ。だから、34ページの辺りの大規模盛土造成地マップみたいな、この辺りなんかもどう捉えておくのかと。多分、金剛ニュータウンみたいな計画的な大規模ニュータウンの中での盛土っていうのは、そう怖くないかもしれないですけど、むしろ小規模の盛土が分布しているという辺りが少し怖くて、これでいうと、東南部っていうんですかね。その辺りをどう考えておくのかというのが、防災上は大きな課題ですよ。

**【置田委員】**

あと、富田林は山という山は無いですからね。一番立地条件がいいと思いますね。石川にしましても、浸かっても板持の方だけでしょ。西側は高いですからね。

**【議長：増田会長】**

多分、今日はお休みの時下先生からの視点からいうと、そういうところでしょうし、武田先生からの視点は、ある意味、都市農地活用基本計画を作られてて、そこからの意見が出てくるでしょうから。先ほどの、市街化区域内の生産緑地を本当に住宅として、これ都計審でもよく議論が出てくるんですよ。そのあたりをどう考えるのかというのは、きっちり議論しないと、社会的な背景と齟齬が発生したりしますので。ただ、もしシティプロモーションみたいなやつを考えると富田林というのは、サバーファームもそうですし、農業政策の中でのプロモーションみたいな話は大きな可能性を秘めたエリアかなと、大阪府下でも、南河内、泉州というのは、ある一定、農業としては、活力を持ってるといふところだと思います。

大体それぐらいでよろしいでしょうか。

そしたら、今日は予定していた時間より若干早く終わることができましたけれども、事務局の方から何か委員の皆さん方に聞いとくような話ございますでしょうか。

いかがでしょう。

**【事務局：福元】**

各専門的なちょっと見地から、色々ありがとうございました。

ご指摘いただいて、追加のデータであったりとか、次回にできるだけ反映をさせて、まとめてご報告させていただければと思いますので、またよろしく願いいたします。

**【議長：増田会長】**

そしたら、一応私の方でお預かりしておりました、議事については、大体終了したかと思えます。

どうもご協力ありがとうございました。

事務局に進行をお返ししたいと思います。

**【事務局：福元】**

そしたらすいません。ありがとうございました。

これで終了したいと思います。